

◎ 2023年の秋・アサギマダラのマーキング調査・京都西山(9.01~10.31)

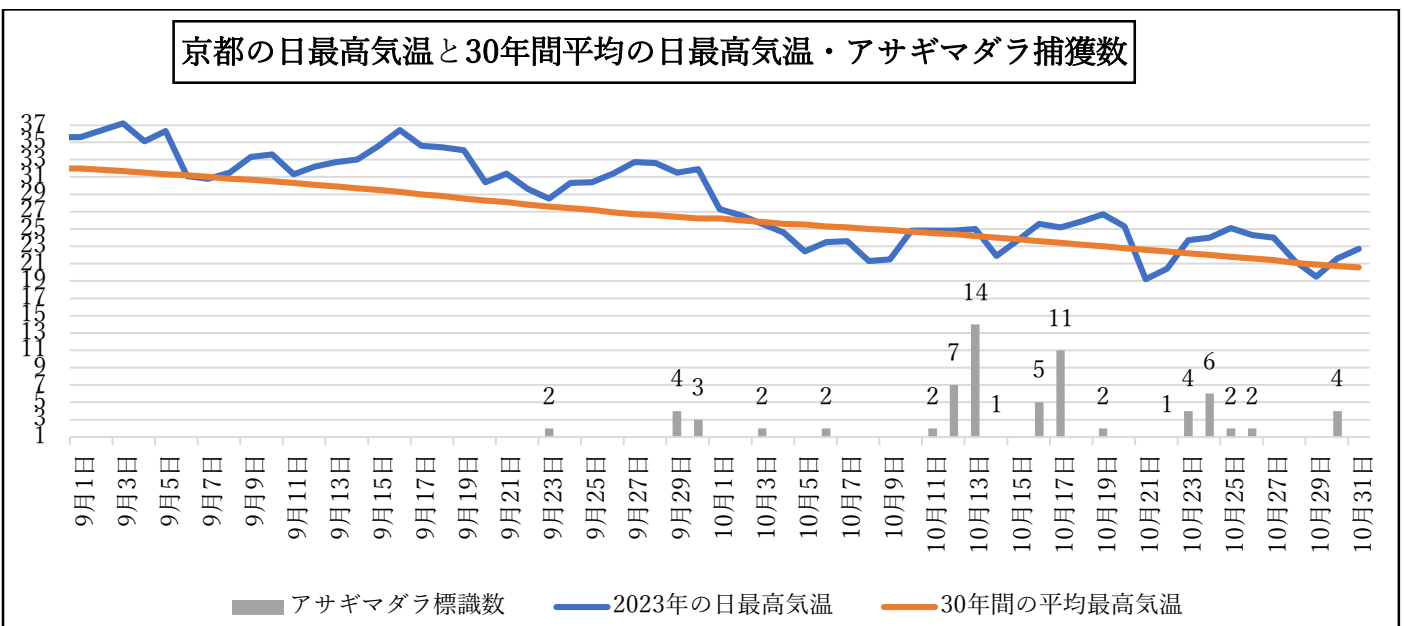


私は来年は満90歳になります。アサギマダラの生態に魅入られて28年になりますが、標識数がたった二けたというのは初めての経験です。私はアサギマダラのMLから追放されているので、今年はアサギマダラが少なかったのか、それともこの大枝フジバカマ花壇を訪れるアサギマダラが少なかっただけなのか、標識数だけからでは判断のしようもありませんが、秋にアサギマダラを誘因するフジバカマの開花状況が最悪だったのも事実でした。

今年の夏には地球温暖化がさらに進み、12月3日の朝日新聞(2面)には、地球温暖化を乗り越えて『沸騰化地球むしばむ』として、世界中で起こっている気象災害や、大規模な森林火災について特集されていました。

時あたかも、COP28(締約国会議)が開催され、地球温暖化の原因となる二酸化炭素やメタンといった温室効果ガスの削減目標や、途上国への支援などが話し合われていますが、温暖化対策では最も大きな会議です。会議の成果はというと、世界の温室効果ガスの排出量は増え続けており、今後も温暖化は進行するでしょう。

さて、地球温暖化は高温に弱いアサギマダラの生存にも警鐘を鳴らしています。人類もそのリスクを負うべきで、今のところ原子力発電再開しか道はなさそうです。どう考えられますか。



この秋のフジバカマ花壇は不作で、去年の1%も開花していません。白絹病や根瘤線虫による根瘤病、芯くい虫による花芽の被食などが直接的な原因ですが、根本的には地球温暖化が原因であり、解決策を模索中です。

(2023.12.15)